

目 次

いま東海支部では

日本鉄鋼協会東海支部の活動概況／宮崎 亨
 若手材料研究会の活動／梅本 実
 若手冶金エンジニア研究会の活動／山村 英明
 学生による材料フォーラム—研究意欲に対する刺激として—／福森 淳三
 全国大会の裏話／井口 義章

ちょっと気になる話

溶鉱炉のにおい／井上 道雄
 名古屋大学工学部材料系学科学生の大学入学前後における興味の対象の変化／山内 睦文
 研究学園都市構想／岡 賢
 “外人”を意識させる日本／ラジャイ アリレザ
 活発な企業活動と社会の課題／マハリ アブラハム
 日本の社会及び日本人の仕事に対する姿勢／劉 鈺

こんなこともしています

歯科用磁性アタッチメントの開発／本蔵 義信・荒井 一生
 機械刃物の技術動向／直井 武
 製鉄業を母体とした新しい企業活動／藤吉 佐敏
 形状記憶合金の開発事例の紹介／鶴飼 敦
 発電ボイラ材の年輪／杉田 雄二
 トヨタ自動車のバイオ・ラボ／早乙 女理

いま東海支部では

日本鉄鋼協会東海支部の活動概況



支部長 宮崎 亨
 (名古屋工業大学教授)

東海支部は昨年支部創立50周年を迎え、10月14日記念講演会と祝賀会が行われました。同時に10月16日から3日間秋季講演大会が名古屋で行われ、東海支部の会員は慌ただしい秋をおくりましたが、ようやく一段落致しました。

最近の当支部の活動状況は比較的順調のように思われます。湯川記念講演会、特別講演会、学術討論会、材料談話会、材料プロセッシング談話会、講習会等の多くの行事が行われており

ます。特に、本支部は若い研究者の育成に力を入れており、上記の行事の他に若手材料研究会や若手冶金エンジニア研究会が設立されており、活発に活動しております。また東海支部で発案実施された「学生による材料フォーラム」は会場を毎年変えながら今年で4回目となりますが、学生の研究意欲の向上と大学・企業間の交流に大いに貢献していると自負しております。さらに新日本製鐵名古屋製鐵所のご厚意による「ものづくり教育」についても好評で、本年も行われる予定であります。以上のような比較的順調な前進は、支部の会員特に歴代の支部長・理事の方々が支部活動に熱心であったたまものと考えます。

東海地方は文化的な面で遅れているとか、都市に潤いがないとか言われますが、当地区には、自動車関連産業を中心に幅広く工業が発達しているなど、素晴らしい点が沢山あります。これは鉄鋼等材料の若い研究者、技術者が大勢いると言うことで、これらの人々の力を結集すれば、より一層の活発な活動が可能であろうと考えている次第です。

若手材料研究会の活動

梅本 実
 (豊橋技術科学大学工学部)

若手材料研究会は日本鉄鋼協会および日本金属学会の東海支部の研究会の一つとして、4年前に活動を開始した。発足の経緯や最初の頃の活動については、平成4年4月号の当欄の土井先生の記事をお読みいただきたい。

東海地区は自動車関連の加工メーカーが多く、材料関係の仕事をしている人達の総数は多いものの各所に分散し、互いに交流する機会は非常に少ないのが実状であったように思う。そこ

で材料関係の仕事に直接携わっている若手技術者、研究者が互いの研究を紹介しあったり、直面している問題に気楽にアドバイスをしあえるような研究会をとということで「若手材料研究会」が誕生した。

本研究会の性格についての共通の認識として、1)金属、セラミックス、ポリマーなどの材料および加工の分野に携わっている若手研究者、技術者の集まりとする。2)産学官の研究者、技術者が自由に意見交換を行い、互いの親睦を深める場とする、等があげられる。

研究会の活動としては原則として、年2回の1日研究会と年1回の泊まり込み研究会兼懇親会を開催している。毎年統一テーマを設け、1回で3～5件の講演とそれに対する質疑応答を